



平成 29 年度

PIANC-Japan 活動報告会

平成 29 年 7 月 3 日

国際航路協会日本部会

平成 29 年度 PIANC-Japan 活動報告会

平成 29 年 7 月 3 日

15:45～16:50

都市センターホテル 601 号室

1) 活動報告会開会挨拶

(15:45～15:50)

林田 博 PIANC-Japan 会長

2) ケアンズ AGA の概要

(15:50～16:00)

堀川 洋 PIANC-Japan 事務局長

3) CoCom 委員会報告

(16:00～16:10)

小野 憲司 京都大学防災研究所 社会防災研究部門(港湾物流 BCP 研究分野)教授

4) MarCom 委員会報告

(16:10～16:20)

樋口 嘉章 (株)オリエンタルコンサルタンツ 執行役員

5) EnviCom 委員会報告

(16:20～16:30)

中村 由行 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院教授

6) RecCom 委員会報告

(16:30～16:40)

山下 雅人 (一社) 日本マリーナ・ビーチ協会理事

7) YPCom 委員会報告

(16:40～16:50)

高橋 英紀 (国研) 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 地盤研究領域

地盤改良研究グループ グループ長

*配布資料のみ

InCom 委員会

菅野 高弘 (一財) 沿岸技術研究センター 審議役

年次総会(AGA)報告

ケアンズ(オーストラリア)

PIANC 日本部会事務局長 堀川 洋

1. 場所

Hilton Hotel Cairns ケアンズ (オーストラリア)



2. 日程

2017 年 6 月 18 日から 20 日

- ・1 日目 : レセプション
- ・2 日目 : AGA、夕食会
- ・3 日目 : 現地見学会

3. AGA 概要

ケアンズの海岸通りに位置する Hilton Cairns を会場に開催された。わが国からは津田国土交通省大臣官房技術参事官、林田副会長、川嶋海洋協会会長、須野原日本港湾協会理事長、池町港湾局首席国際調整官、田中水産庁課長補佐、塙本同専門官、2019AGA が開催される神戸市の金谷みなど総局経営企画担当局長、山田同係長、および PIANC 日本支部堀川事務局長が出席した。全体出席者はおよそ 100 名。



(1) 会長、事務局長報告

港湾をめぐる世界の動向、PIANC活動の概況、今後の活動方向、決算報告、予算などについての総括的報告がなされた。この中で、SHIBATA FENDER TEAM ドイツが最近唯一プラチナメンバーに加わったこと、PIANCの財政状況が健全であること等が報告された。

(2) 人事案件

一副会長の交替

オランダの M. Wolters からオーストラリアの Neil Lawson へ

一事務局長の交替

Louis Van Schel から Geert Van Cappellen へ



一名誉会員の指名

須野原名誉副会長、Schel 名誉事務局長などが指名された。

(3) 各委員会の活動状況

Envicom、RecCom、InCom、MarCom から活動報告がなされた。

(4) 今後の国際行事

PIANC-SMART River 2017: Pittsburgh, USA

NORD-PIANC 2017: Stockholm, SWEDEN

34th PIANC World Congress, 2018: Panama City

New Mediterranean Days 2018: Seville, SPAIN

AGA 2019: Kobe, JAPAN

神戸市みなと総局金谷経営企画担当局長が神戸市と周辺状況について報告し、
2019 神戸 AGA への参加を呼びかけた。



AGA 2020: UK

COPEDEC 2020: IRAN

AGA 2021: Oslo, NORWAY

COPEDEC 2024: SOUTH AFRICA

(5) De Paepe-Willems Award (DPW)

DPW 賞の 1 位が以下のように発表された。

1st “Toward Better Prediction of Dredging Plumes: Numerical and Physical Modeling of Near-field Dispersion”
by Boudewijn Decrop (Belgium)

THSD (ドラグサクション浚渫船) の浚渫時排水に含まれる濁りの拡散予測方
法の研究。

(6) PIANC 行事の変革について

Congress、COPEDEC、Smart River 等を含む PIANC のイベントの見直しについて提
案があり、今後議論されることになった。

津田参事官より、改革を進める必要があり日本政府としても支持していくことを表明した。

Example of the new organization of our meetings:

<i>Year</i>	<i>N</i>	<i>N+1</i>	<i>N+2</i>	<i>N+3</i>	<i>N+4</i>
<i>February</i>	ExCom Commissions WG	+ ExCom + Commissions WG	+ ExCom + Commissions WG	+ ExCom + Commissions + WG	+ ExCom + Commissions + WG
<i>May or June</i>	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + Council + 1/2 ExCom + AGA + Congress	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + ExCom + Council + 1/2 ExCom + AGA	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + Council + 1/2 ExCom + AGA + Copedec	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + ExCom + AGA	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + Council + 1/2 ExCom + AGA + Congress
<i>September or October</i>	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + Council +1/2 ExCom	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + ExCom + Council +1/2 ExCom + <i>Smart Rivers</i>	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + Council +1/2 ExCom	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + ExCom + <i>Smart Rivers</i>	Nat. Secr. + $\frac{1}{2}$ ExCom + Council +1/2 ExCom

Remarks:

1. A yearly major event (PIANC World Congresses, PIANC-COPEDEC Conferences, PIANC-SMART Rivers) is a burden on:

(es)



国際協力委員会の活動状況について

INTERNATIONAL CO-OPERATION COMMISSION



小野 憲司

ono.kenji.5z@Kyoto-u.ac.jp

CoCom（国際協力委員会）の主なミッション

- A) PIANC会員(特に発展途上国会員)拡大の支援。
- B) 水上輸送のメリットや内陸水運、海洋航路、港湾の技術的、科学的発展に関する情報をPIANC国内部会を有しない国に普及するための手段や方法の構築。
- C) 地域グループを通じて、発展途上国の港湾・航路専門家と先進国の専門家の交流を拡大。
- D) 発展途上国の港湾・航路専門家の専門知識強化の機会の創出。
- E) 4年に1度開催されるPIANC-COPEDECの支援

CoComの構成とメンバー

A) 共同議長

Edward Schmeltz (米国)



Edward Schmeltz

Akula Rao (インド)



Akula Rao

B) 4小委員会 (CoCom関係ワーキンググループ運営、会員拡大、COPEDEC支援、発展途上国専門家支援)

C) 20か国から委員23名、代理委員4名、YP1名、オブザーバー1名が登録。

最近の活動状況と当面の課題

A) 2016年10月16日にブラジル（リオデジャネイロ）で、また2017年2月1日にブリュッセルで、会合を開催した他、昨年10月の第9回海岸・港湾工学国際会議（IX PIANC-COPEDEC 2016）の活動を支援。

B) 現下の課題は、

- ① PIANC加盟国拡大に向けた重点国の勧誘及び国内部会設立の促進。
- ② 発展途上国向け訓練機関及び訓練コースデータベース（2008年作成）の更新（昨年度末までの修了）
- ③ 発展途上国専門家短期訓練パイロットコースの実施計画
- ④ 地域グループ活動状況の促進
- ⑤ 次回PIANC-COPEDECの開催準備（2010年イラン？）
- ⑥ CoCom行動計画の実施状況フォローアップ

PIANC-JAPAN の活動重点事項

- A) アジアにおける新規加盟国の勧誘（カンボジア、ミャンマー）
- B) 国内部会設立支援（ベトナム）
- C) 日本における港湾関係教育・訓練機関/訓練コースの充実・プレゼンス強化（目下、CoCom Training Databaseにおける日本のプレゼンスは皆無）
- D) その他

今後のCoComの活動予定

- A) PIANC-Smart River会議に合せたCoCom会合：2017年9月18~21日予定
- B) 定例会合：2018年2月初旬@ブリュッセル
- C) 第34回国際航路会議、パナマ、2018年5月7~12日

MarCom(海港委員会)報告

2017年7月3日

(株)オリエンタルコンサルタンツ 執行役員

樋 口 嘉 章

2016年度の開催実績

- 2016年9月19日午後～20日午前
於 英・ウォリングフォード水理研究所
- 2017年1月31日午後～2月1日
(1日午後はInComとの合同会議)
於 白・ブリュッセルPIANC本部

2

メンバーの交代

- 2016年9月
- イランの代替メンバー ババック・バニジャマリ氏が初参加
- ドイツ ステファン・ハウザー氏の逝去
- 英国の代替メンバー、スティーヴ・コーク氏離任
- 国がPIANCから脱退したため、インドのB・ポイヤモチ氏、エジプトのA・バナワン氏、ポーランドのグスマ氏が離任
- 2017年2月
- IAPHからのメンバーF・ファンデラール氏が離任

3

Obituary

- ドイツからのメンバー、
- ステファン・ハウザー氏
(ドイツ連邦政府の交通・デジタル
インフラ省水路海運総局)
が2016年8月29日に51歳で急逝した。
- MarComの精力的なメンバーであり、2013年9月には仙台で開催されたMarComにも参加。
- ご遺族は奥様と2人の息子さん。
- ご冥福をお祈りいたします。



4

2016年に出版されたWGレポート

- WG152 旅客船ターミナルのガイドライン
WG153 海洋石油ターミナルの設計に関する勧告
WG162 海洋コンクリート構造物の耐久性向上と
延命に関する提言
WG172 中規模LNG船ターミナル(含補給施設)の設計
WG196(旧47)
防波堤の形式と最適破壊リスクレベルの選択基準

会員はPIANCのHPから、無料でダウンロードできます。

5

WG145 静穏水域での接岸速度 Berthing Velocities in Sheltered Environment

- 上田茂元教授が共同議長を務めている。
- 設計法については記載されないことから、表題が変更された。
- 本年9月に最終(案)の予定となっている。

6

**WG159 海港における
再生可能エネルギーとエネルギー効率**
Renewables and Energy Efficiency for Maritime Ports

- 3月にWGが開催され、本年9月にはD/RがMarComに提出される予定。

WG161 洋上風力発電が船舶航行に及ぼす影響
Interaction between Offshore Windfarms and Maritime Navigation

- 3月にWGがロッテルダムで開催され、本年9月にはD/Rが提出される予定。
- IALA(国際航路標識協会、Inter'l Ass. of Lighthouse Authorities)とのジョイント・レポートとする可能性を探ったが、先方から、IALAのレポートで引用するといった形とすることが適当との返事が来ている。

7

8

WG164 増深によるターミナルの改良
Upgrade of Port Terminals by increasing dredged depth

- 2月のMarComで、米国・日本よりの追加メンバーが求められたことから、国総研宮田正史港湾施設設計室長、港空研水谷崇亮基礎工研究G長をノミネートすることとなった。また、埋立浚渫協会を中心に国内支援体制を整えることとなった。

WG167 RoRo船及びRoPax船用ターミナルの設計
Design of terminals for RoRo and RoPax vessels

- 17年9月のMarComで報告予定。

9

10

**WG171 航路及び港湾計画
のための船舶シミュレーション**
Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design

- 17年夏以降にD/R予定。

WG184 ドライバルクターミナルの設計原則
Design Principle for Dry Bulk Marine Terminals

- ToRの変更を2月のExComに提案する。

11

12

WG185 未開発地域における開発マスター・プラン Masterplans for the Development of Greenfield ports

- 2月のExComでタイトルを上記に変更することとを提案する。
- 17年9月のMarComにD/Rを提出を目標とする。

13

WG186 巨大船舶の係留方法 Mooring of Large Ships at Quay Walls

- ルーマニアの2名のメンバーの連絡が取れないため、メンバー・リストから消すこととする。

14

WG187 航路における 海底パイプライン・ケーブルの防護 Protection of Undersea Pipelines and Cables in Navigable Areas

- 16年9月以降17年1月までに2度のWGを開催しており、近日中にP/Rの予定。

15

WG194 インフラ整備における初期段階からの 施工者参加方式の枠組み A Framework for Early Contractor Involvement in Infrastructure Projects

- 2月2日にKoMが開催された。
- 公的セクターからのメンバー増強が望まれる。

16

ToR 構造物の健全性診断 Structural Health Monitoring

- InComが提案しているToRについて、2月1日午後のMarComとInComの合同会議で、議論がなされた。
- InComで議論されているToRについて、MarComより、もっと港湾に重点を置くこと、直立防波堤も対象とすること、設計など初期段階から健全性診断を考えるべき等の意見が出された。
- 今後、InComとMarComの共同WGとして立ち上げられる見込み。

17

今後議論される新しいWG

- ①軟弱地盤上の石積み防波堤
- ②耐震設計ガイドラインの更新
- ③防舷材についてのガイドライン
- ④多目的ターミナル
- ⑤コンテナターミナルの自動化
- ⑥地震を含む極端現象後の調査・診断
- ⑦船舶修繕施設(WG15レポートドライ・ドック(1988年)の更新)

18

①軟弱地盤上の石積み防波堤

- ・イランよりの提案
- ・石積み防波堤のみを対象とするのではなく、WGのスコープとして狭すぎるのでないかとの意見を出した。
- ・9月のMarComに向けて、日本サイドでToRを準備中。

19

②耐震設計ガイドラインの更新

- ・「港湾構造物の耐震設計指針」(WG34、議長井合進元教授、2001年)の改訂
- ・米メンバーより、ASCEの耐震設計ガイドライン出版(2014年)などの情勢を踏まえ、改訂のためのWGを解消することの提案があった。
- ・9月のMarComに向けて、日本サイドでToRを準備中。

20

③防舷材についてのガイドライン

- ・WG33「防舷材設計指針」(2002年、上田茂議長)を、改訂する。WG145「静穏水域での接岸速度」(上田茂共同議長)では、必ずしも設計まで含めることができなかったことをうけて、新たなWGを立ち上げようとしている。
- ・9月のMarComに向けて、日本サイドでToRを議論し始めている。

21

- ・ご清聴ありがとうございました。

22

MarCom Active Working Groups Time Schedule – Meeting 2017-1

A = WG approved by ExCom **K** = Kick Off Meeting

P = Presentation draft Report in MarCom

S = Send final report to Brussels



環境委員会Environmental Commission活動報告

中村由行（横浜国立大学大学院）

PIANC_Japan 活動報告会 2017年7月3日

“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

新しいアクションプランの策定

EnviCom Action Plan 2014-2018: New Goal

Promote the concept of
“Sustainable, Integrated and Resilient Management
(SIRM) of Navigation Assets and Natural Resources”

Lead process within PIANC of defining and promoting SRM as
along term goal by
•providing implementation guidance and recommendations
•キーワード: WwN (自然との共生) や Ecosystem Goods and
Services (EGS、生態系サービス), Climate Change Adaptation
(気候変動に対する適用策), safety, hazard and environmental
risk management (環境リスク管理),

“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

メンバー

2016年10月現在： 33名、15カ国、9つの関連団体から参加

countries

Australia	Japan
Belgium	The Netherlands
Columbia	Norway
France	Philippines
Finland	Spain
Germany	South-Korea
India	UK
Iran	USA

partners

CCNR
CEDA
ESPO
EUDA
IAPH
IADC
Ports Australia

wanted: Italy, China, Brazil, Argentina

“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

2016 年度の会合

No. 45 Rio de Janeiro, Brazil, 15./16. Oct. 2016

+ participation in PIANC-COPEDEC Conference 2016, 16-21. Oct. 2016

No. 46 Brussels, Belgium, 31.Jan./1. Feb. 2017



次回予定

No. 47 Pittsburgh, PA, USA + Smart Rivers 2017

No. 48 Brussels, Belgium, 31.Jan./1. Feb. 2017

Chair交替: Harald Koethe

“Setting the course” → Todd Bridges (AGA 19/June, 2017)

PIANC – EnviCom report 2015/2016

Working Group と Task Group 活動状況 1

浚渫土砂関連

Ongoing enlargement of PIANC DM guidance for environmental sensitive areas:

WG 157:

“Environmental Aspects of Dredging around coastal vegetation”
New Chair: Paul Erfemeijer (NL), Publication in 2016

WG 170

on 06./07.Feb. 2014

“Good dredging practice
around sea wildlife”

Chair: Chris McDougal (UK)



“Setting the course”

PIANC Working Group 157
Singapore
21-23 August 2012

Pulau Semakau Intertidal Field Trip



PIANC – EnviCom report 2015/2016

Working Group と Task Group 活動状況 2

航路・水路

“Sustainable, Integrated and Resilient Management (SIRM) of Navigation Assets and Natural Resources”

新規WGの立ち上げ:

WG 175 “A Practical Guide to Environmental Risk Management (ERM) for Navigation Infrastructure Projects”

WG 176 “A Guide for applying Working with Nature (WwN) to Navigation Infrastructure Projects”.

–expert seminar on Ecosystems Goods and Services (EGS) to produce a guiding document

- new WG ”A guidance on climate change adaptation for navigation infrastructure projects” – elaborated by PTGCC



“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

Working Group と Task Group 活動状況 3

航路・水路

WG 178 "A guidance on climate change adaptation for navigation infrastructure projects"

Kickoff: 05/06.02 2015, PTGCC/EnviCom mentor: Jan Brooke

Chair: Charles Haine (UK), Secretary: Ben Hodgkin (UK)

WG 188 "Carbon Management for Port and Navigation Infrastructure" 港空研桑江グループ長

Kickoff: 04.02 2016, PTGCC/EnviCom mentor: Filip van de Putte (B)

Chair: Doug Dougherty (USA), around 15 members

in Prep.: WG 193 "Resilience of the maritime and inland waterborne transport systems": call went out, kick off in 2016

"Setting the course"

PIANC – EnviCom report 2015/2016

重点活動項目 (1)

Working with Nature – WwN



- ✓ WwN に関し、世界各国で講演(EnviCom メンバー)
YPCom seminar in Japan, 9th Dec. 2014では中村が報告
- ✓ WwN Position Paper が各国語に翻訳(日本語含む)
- ✓ WwN online database にプロジェクトが紹介され、プロジェクトの認定方法が2013年2月に確定
- ✓ 18 のプロジェクトが申請され、以下の3つのカテゴリーにおいて9プロジェクトが認定
 - 1. Certificate of recognition (7),
 - 2. Candidate for certificate of recognition (1),
 - 3. Supporter of WwN (1)

- ✓ WwN 審査チームメンバー

Elmar Fuchs/EnviCom (chair), Arjan van der Weck/MarCom,
John D. Clarkson/InCom, Esteban Biondi/RecCom,
Hartmut Brühl/CoCom, Pablo Arreco/YPCom)

"Setting the course"

PIANC – EnviCom report 2015/2016



Working with Nature

第1回 WwN Award が PIANC Congress 2014にて表彰

3つのプロジェクトが受賞:

– Flood Spillway Rees/River Rhine



– 3 Meter Navigation Channel Middle Mississippi



– New tidal Area Krettsand/River Elbe



New submitted and acknowledged projects can qualify
for WwN Award 2018

New WG 176 on WwN: further PIANC guidance
Platforms for Exchange: WwN database and
LinkedIn-Group

"Setting the course"

PIANC – EnviCom report 2015/2016

重点活動項目 (2)

Permanent Task Group on Climate Change (PTGCC)

since 2009

- Filters and packages current CC knowledge for navigation community (e.g. new IPCC report - AR5)
- produces guidance and write-ups (make use! see thematic PIANC website)
- Chair Todd Bridges & Secretary Sandra Newell (USA)

✓ Meetings in conjunction with EnviCom meetings:
No.15 in Rio de Janeiro, Brazil, 15. Oct. 2016
No.16 in Brussels, Belgium, 31.Jan 2017

+ Telecons

鈴木部長(国総研)→栗山所長(港空研)参加

"Setting the course"

PIANC – EnviCom report 2015/2016

重点活動項目 (2) (つづき)

Permanent Task Group on Climate Change (PTGCC)

- ✓ Goal: orientation for the navigation sector to integrate climate adaptation in waterborne infrastructure planning and decision-making (increase of resilience)
- ✓ Thematic PIANC website
<http://www.pianc.org/climatechange.php>
- ✓ The PTGCC prepared
 - WG 178 on Climate Adaptation (kick off Feb. 2015)
 - WG 188 on Carbon Management (kick off Feb. 2016)
 - WG 193 on Resilience (kick off in prep.)

“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

その他の団体との協力

IMO, Scientific Group of the London Convention

- ✓ Joint PIANC/CEDA participation in review of Specific Guidelines for Assessment of Dredged Material; new guidelines approved in Oct.13 (see article in PIANC newsletter Oct.13). Important message: “dredged sediments are a natural resource and not waste per se”
- ✓ Ongoing participation in SG meetings (May 2013, May 2014), submission of new EnviCom reports to the SG of LC

OSPAR, Environmental Impact of Human Activities (EIHA)

- ✓ review of Specific Guidelines for Assessment of Dredged Material,
- ✓ joint effort with CEDA , participation in EIHA meetings

EU guidelines: navigation + nature protection

- ✓ Ongoing observation and case by case involvement by EnviCom members

“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

その他の活動

UN Sustainable Development Goals (SDGs) とPIANC活動の関連

- ✓ “New SDGs”が国連から公表され、17の大項目と、それぞれの項目に小項目が設定された。
- ✓ 例1) Goal 9. Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation.
- ✓ 例2) Goal 13. Take urgent action to combat climate change and its impact.
- ✓ PIANC(特にEnviCom)のさまざまな活動をSDGsの各項目に位置づけるとどうか？ 中村が中心に試行。



“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

Mission

New UN SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDG)

Roadmap 2030

Document is available at <http://undocs.org/A/68/970>, Sept. 2015

- GOAL 6** Ensure availability and sustainable management of water and sanitation for all
- GOAL 7** Ensure access to reliable, sustainable and modern energy for all
- GOAL 8** Promote sustained, inclusive and sustainable economic growth, full and productive employment and decent work for all
- GOAL 9** Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation
- GOAL 13** Take urgent action to combat climate change and its impacts*
- GOAL 14** Conserve and sustainably use the oceans, seas and marine resources for sustainable development
- GOAL 15** Protect, restore and promote sustainable use of terrestrial ecosystems, sustainably manage forests, combat desertification, and halt and reverse land degradation and halt biodiversity loss

17 goals with subgoals – relevance for PIANC

“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016

おわり

ご清聴ありがとうございました



“Setting the course”

PIANC – EnviCom report 2015/2016



レクリエーション水路委員会 (RECREATIONAL NAVIGATION COMMISSION)

2016年度RecCom活動報告

RecCom委員
山下 雅人
(一社)日本マリーナ・ビーチ協会
理事
2017/07/3



RecComメンバー

- 委員会メンバー 19カ国 総計29名
- Chairman: Mr Elio Ciralli (Italy)
- Secretary: Mr Simone Lanzalone (Italy)

Member									
Argentina	1人	Cyprus	1人	Italy	4人	Korea	2人	UK	1人
Australia	1人	Finland	1人	Japan	1人	Spain	2人	Uruguay	1人
Belgium	2人	France	1人	Norway	1人	Sweden	1人	USA	3人
P.R. China	1人	Germany	2人	Monaco	2人	Netherlands	1人		

RecCom会議

第68回 RecCom会議

- ・日時:2016年11月20日 9:00～18:00
- ・場所:オランダ アムステルダム
- ・参加者:9名の参加;イタリア、アメリカ、英國、ベルギー、韓国、日本(計7名)、アルゼンチン、スペイン(スカイプ計2名)
- ・“ICOMIA World Marinas Conference”11月17日(木)～11月19日(土)に合わせてRecCom#68会議の開催
- ・RecComとICOMIA IMGの合同会議の実施(11月20日)



第69回 RecCom会議

- ・日時:2017年4月7日 9:00～18:00
- ・場所:マリーナ サンタ マリネッラ イタリア

議事の概要(1)

- ・1. 委員長の挨拶(RecCom #68)
- ・新RecCom委員としてMr Wook-Jae Lee(韓国)、Mr Dimitrios Pagonis(キプロス)の紹介
- ・当日の課題は、変更することなく承認
- ・前RecCom委員長マルチエロ・コンティが2016年10月に自宅にて他界
- ・2. RecComアクションポイントリストの確認
- ・3. 年次報告について協議

議事の概要(2)

- 4. ワーキンググループの進捗状況
- WG 147:「漁業、商業港内のレクリエーション航海活動のガイドライン」 TOR再承認:2014/2 業務再開始:2015/7 ドラフト:2016 出版予定:2017年
- ドラフトの確認実施
- WG 148:新名称「持続可能なレジャー用航路施設」
- EnviCom協力でRecComとICOMIAの共同WG
- RecCom #68で更新TORと新メンバーの了承

議事の概要(3)

- WG 149:「マリーナの設計PIANCガイドライン」 TOR:2009/11 業務開始:2010 出版予定:1章、2章は2016年出版済、4章はほぼ準備完了
- 3章、5章以外は今後の対応
- WG 168:「ヨット用の一点係留施設の設計」 TOR:2013/2 業務開始:2014/2 出版予定:2017
- ドラフトは、2017年2月に準備
- WGから協力要請

議事の概要(4)

- WG 169:「マリーナにおける火災検知と管理」TOR:2013/2 業務開始:2014/2 出版予定:2017
- 草案は2017年2月の準備
- WG 177 :「マリーナの優れた計画：“Jack Nichol” Award MEDA の10年」(RecCom内部WG)TOR承認:2014/2 業務開始:2014/2 出版予定:2017
- 草案はRecCom #69までに準備

議事の概要(5)

- WG 182:「水面下音響イメージング」
- TOR:2015/2 業務開始:2015/7 出版予定:2017
- RecCom、MarCom、InComの共同WG
- メキシコのマリーナ浚渫事前測量の事例採用
- WG 183 :「マリーナの革新的な製品と技術」(RecCom内部WG)
- TOR:2015/2 業務開始:2016/3 出版予定:2018
- アムステルダムで7月17日にWGの実施済
- バルセロナで2017年2月に会議予定

議事の概要(6)

- 5. 新規TOR
- 「ウォーターフロントプロジェクトのRNI(Recreational Navigation Infrastructure)の影響」
- 再開発、再生プロジェクトだけでなく、新開発プロジェクトも対象
- 6. RecCom小委員会
 - ①通信と編集(C&E) 小委員会、②PIANCマリーナデザイナー教育プログラム(MDTP) 小委員会、③PIANCマリーナ優秀デザイン賞「ジャックニコル」小委員会(MEDA)

議事の概要(7)

- PIANCマリーナ優秀デザイン賞「ジャックニコル」小委員会(MEDA)
 - MEDA 2017の申請、マリーナ カルトラ(エストニア)の一案件
 - MEDA 2017の候補の不足に関する議論
 - MEDAのさらなる広報活動
 - 7. RecCom会議の開催予定
 - - 2017年秋、ブリュッセル
 - 2018年春 (調整中)

RecComとICOMIA(IMG)合同会議(1)



- 出席者: RecCom7名、IMG19名、計26名
- ① 環境に関するWG148の協力体制について
- ICOMIA IMG (ICOMIA Marinas Group)への積極的な参加要請

RECCOMとICOMIA(IMG)合同会議(2)

- ② RNI 市場における教育ネットワークの形成について
- PIANC MDTPとの関わりの強化
- 本部間の業務調整を委員会間で実施、機動性強化
- ③ 新規TORs “Influence of RNI on Waterfront Projects”
- RecComとICOMIA IMGとのWGの協力強化
- RNI市場(開発者、所有者、プランナー、デザイナー、建造者、オペレーター、マネージャー等)との知識の共有

ICOMIA WORLD MARINAS CONFERENCEの概要(1)

- IWMC会議の出席者: 約200名(39カ国)
- 4.1マリーナの運営 革新的な解決手段
 - ①スマートマリーナのワイヤレスの対応策
 - ②新しいマリーナ文化の形成
- 4.2職員の配置とトレーニング 資格のある操作員
 - ①ビジネスに利点をもたらすGMI(Global Marina Institute)プログラム
 - ②技術習得の展開



ICOMIA WORLD MARINAS CONFERENCEの概要(2)

- 4.3マーケティング 顧客への理解
 - ①消費者のグローバル傾向、船に乗る人の傾向
 - ②生産性管理によるマリーナ独自の価格設定
 - ③ボート業界における女性の進出
- 4.4顧客への配慮 係留施設保有者の満足
 - ①マリーナPunat、クロアチアでの販売とマーケティング戦略革新
 - ②顧客サービスの満足度の達成、最終セッション マリーナ財務モデル

PIANC YP-Com 活動報告

平成29年度



YP-Com日本代表 高橋 英紀
(国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所)
港湾空港技術研究所 地盤研究領域

YP-Com日本副代表 松下 紘資
(日建工学株式会社 技術部)

平成28年度の活動概要

1. 第2回アジアセミナーへの参加

- ・開催日：平成28年4月11～14日
- ・開催場所：フィリピン（マニラ）
- ・内容：講演会、ワークショップ、現場見学会



2. YPCom会議への参加

- ・開催日：平成29年2月1日
- ・開催場所：ベルギー（ブリュッセル）
- ・内容：YPCom会議、現場見学会



3. その他

第2回アジアセミナーへの参加

1. 開催日： 平成28年4月11～14日

2. 開催場所： フィリピン・マニラ

3. 内容：

- ・第1回アジアセミナー(横浜)に続き、第2回アジアセミナーがフィリピンで行われた。運営ノウハウをはじめとして、日本も開催に協力した。
- ・シニアメンバーのレクチャーやYPの発表、企業からの発表、ワークショップ、現場見学会などが催された。



セミナーの全体集合写真



会議での集合写真

第2回アジアセミナーの様子



講演会の様子



Port of Batangas



PPAへの表敬訪問



現場見学会(のついで)

YPCoM会議への参加

1. 開催日：平成29年2月1日
2. 開催場所：ベルギー・ブリュッセル
3. 内容：
 - ・YPCoM会議へ参加した。主に、今後の方針、6thBTVと第3回アジアセミナーの内容、他地域のセミナーの推進について議論された。
 - ・ブリュッセル郊外のStrepy-Thieu(ストレピ=ティウ) Barge Liftを見学した。



新水門



旧水門

その他

1. 団体会員、個人会員問わず、隨時、若手技術者（40歳以下が基本）のYPCoM国内グループ※への登録をお願いしている。各社1名とは限っておらず、複数人の登録も可能であり、多くの登録をお願いしたい。メンバーには、YPCoM本部の情報をメールで発信している。
2. 平成29年度の活動としては、以下のことを実施・予定している。
 - ・国内グループ意見交換会（東京）の開催（4月25日）
 - ・6thBTV（オーストラリア）への参加（6月15～20日）
 - ・国内グループ現場見学会の開催（秋ごろ）
 - ・YPCoM会議（ベルギー）への参加（2月）
3. 各国で開催されるイベントへの推薦やDPWA賞の推奨も行う。

※YPCoM国内グループとは、団体会員各者の若手技術者から構成した情報交換ネットワークである。現在、約30名の方に登録していただいている。

第77回 INCOM Meeting

日時：2017年5月9日 8:30-17:00

会場：PIANC 本部会議室

参加者：Chair Phillippe RIGO(Belgium),
Micheal FASTENBAUER(Austria),
Otto KOEDIJK(Netherlands),
Alfred (France)
A DOHMS(Germany)
Takahiro SUGANO(Japan)

議事：

1) INCOM ホームページの運用について

メンバーズ only ページの取り扱い：

個人情報や公表前の情報については関係者限りとする必要があるため、当面は現状どおり運用

2) 各 WG の活動状況について

First Stage, In Progress の WG で、メンバーを募集している積極的に適任者を紹介して欲しい

特に、活動開始間もない WG へメンバーの派遣をお願いしたい。

日本において運河が発達していないことは承知しているが、防食等、いくつかの WG については派遣が可能ではないか？

>WG の活動目的、現メンバーを勘案して日本からメンバーを派遣できるか検討する。 ざっと各 WG の活動目的を見たところ WG199,197,192,190,189 などは可能性があるものと考えられる。WG メンバーを派遣できるか確約は出来ないが、候補者を捜す努力はする。

2019年5月～6月 日本にてINCOM meetingを開催したい。 旅費の関係からか、ヨーロッパや米国で開催しても参加が困難なアジア諸国メンバーが多数存在するものと考えられる。日本で開催することによって「アジア諸国メンバーの参加を促す」ことも狙いたい。

>開催へ向けて関係者と調整してみる。

3) Kick off meeting の予定

INCOM WG199 Structural health monitoring Nov. 2017

Smith Matthew USA, Quincy Alexander USA Alternate

Colin Hedderwickn Australia, Gonzalo Aivar Mateo Spain

Daniel Romero YP Spain, Samuel PINEAU FR
Pascal COLLET Alternate FR, Nabil BRAHIMI YP FR
Els BONTE BE, Becht MOELANS YP BE
Bram LEUS BE Alternate, Karel SAEY BE YP Alternate
Will EVANS UK, Graham WEBB YP UK, Marloes BAIJENS NL
Bärbel KOPPE DE, Marc GUTERMANN DE Alternate

4)WG 一覧

- WG 201 - Development of a Proposal of Inland Waterway Classification for South America First Stage
WG 199 - Health Monitoring for Port and Waterway Structures First Stage
WG 198 - Saltwater Intrusion Mitigations and Technologies for Inland Waterways First Stage
WG 197 - Small Hydropower plant in Waterways First Stage
WG 192 - Automation and remote operation of locks and bridges First Stage
WG 191 - Composites for Hydraulic Structures First Stage
WG 190 - Corrosion Protection of Lock Equipment First Stage
WG 189 - Fatigue of Hydraulic Steel Structures First Stage
WG 179 - New Ships in the CEMT 92 Classification In Progress
WG 173 - Movable Bridges and Rolling Gates Published
WG 166 - Inflatable Structures in Hydraulic Engineering Final stage
WG 156 - E-navigation for Inland Waterways Published
WG 155 - Ship behaviour in locks and lock approaches Published
WG 154 - Mitre Gate Design and Operation Final stage
WG 151 - Impacts of seismic loads and ship impact on lock gates Published
WG 141 - Design Guidelines for Inland Waterways Final stage
WG 140 - Semi-probabilistic design concept for inland hydraulic structures Published
WG 139 - Values of Inland Waterways Published
WG 137 - Resilience - Flood Defense Systems (2014) Published
WG 128 - Alternative Technical-Biological Bank Protection Methods for Inland Waterways First Stage
WG 125 - River Information Services In Progress
WG 106 - Innovations in Navigation Lock Design (2009) Published
WG 101 - Movable Weirs and flood Barriers (2006)